

歲在戊子^{○文政十一年}維秋中八日九日天大風風來自西南海上肥前筑後當其衝怒浪大齧穴門破防菽次第來擊撞掌大雨點撲人腥雨邪潮邪聲洶洶大屋掀撼人盡走小屋併人飛入空大木倔強姑抗拒力竭戰敗斃老龍鳥鳥失其巢駢死孰雌雄陸已如此況在海萬編四散失所在吳船葉碎越船破雖然可修又可改歐邏巴船號浮城吹之上陸陷地底募能引拔致於水賞以互市利一載愚民莫應涕滂沱曰何必恤喞蘭陀吾屋盡破吾田無禾無緣出常科何況供倍多金銀宮館成旋圯奈此封姨降嫁何君不聞貞觀中海溢肥後沒郡六大鳥來集宰府屋朝廷惶懼問大卜權帥少貳各陳策水田課耕緩貢調停止交易務儲蓄嗚呼古人太過慮何不坐食駭鯨肉

〔和漢三才圖會三象〕颶具 石尤風 海中

よみのおほかせ 按勢州尾州濃州驪州有不時暴風至俗稱之一目連以

爲神風其吹也拔樹仆巖壞屋無不破裂者惟一路而不傷他處焉勢州桑名郡多度山有一目連祠相

州謂之鎌風駿州謂之惡禪師風相傳云其神形如人着褐色袴云々

〔閑田次筆〕^一過し壬戌のとし^{○享和二年}七月晦日上京今出川邊に一道の暴風屋を壊り天井床疊をさへ吹上あるひは赤金もておほへる屋根などもまくり取離たり纔に幅一間ばかりが間に筋に當らざれば咫尺の間にて障なし末は田中村より叡山の西麓にいたりて止りしとぞ蛇の登るならば雨あるべきに一雫も降らずこれ羊角風といふものかといへり北國にては折々あることにて一目連と號くとぞ

微風

〔倭名類聚抄風一〕微風 崔豹古今註云微風大搖此問云古加世

〔類聚名義抄風十〕微風 コカセ 颶 音通風 コカセ

〔赤染衛門集〕^{まうで}つきて見れば^{○熱田}いと神さびおもしろき所のさまなりあそびしてたて

まつるにかせにたぐひて物のおとともいとをかし
笛のねに神の心やたよらん森のこかせもふきまさるなり